



特別水難救助隊 隊員育成および現状について

7月5日(金)に白谷海浜公園沖で、田原市消防特別水難救助隊の隊員3名が、限定水域ドライバー(三河湾で水上バイクを運転することが出来る隊員)の任命を受けるための技量確認が実施されました。新たにドライバーに就く隊員は「一日でも早く、先輩隊員のようなドライバーになりたい」と意気込みを語りました。

田原市消防特別水難救助隊は、本年度で発足から5年を迎え、現在は10名の消防隊員と2名の機能別消防



▲訓練活動中の様子



▲訓練報告中の様子

火の用心

団員により、太平洋や三河湾で発生した水難事故に対応しています。経験と知識、技術を習熟した隊員が充足してきた反面、次世代への伝承も重要な課題として取り組んでいます。今後も、計画的な隊員の育成と技術の伝承を図り、どのような環境下でも「安全、確実、迅速」をモットーとして活動していきます。

新規潜水隊員の養成

田原市消防本部では海や河川などの水難事故救助に対応するため、田原市消防署と渥美分署に潜水隊、赤羽根分署には特別水難救助隊を配置しています。潜水教育を受けて、資格を得た職員が



▲潜水活動中の様子

潜水隊員として活動します。隊員は、厳しい訓練に耐え、安全な潜水活動ができるよう漁港などで日々訓練を重ねています。



▲岸壁から救助に向かう様子

救助工作車が新しくなりました

8月に消防署の救助工作車を新しく変えました。この車両は、クレーン、ウインチ、照明器具などを装備し、車両事故救助など、あらゆる救助に対応するため出動する車両です。車内で隊員が装備を整え、出動時間を短縮できるようスペースを最大限に拡張しています。天井は身長



▲救助工作車



▲車両背面



180cmの隊員が立って活動できるような高くできており、後部座席ドアに3面の大きな窓が設置され、視認性を向上させて安全に運行できるようにしています。また、救助器具の多くはバッテリーで動く充電式のものに更新するなど、環境に配慮した車両となっています。



▲油圧救助資機材

住宅用火災警報器の定期点検を忘れずに!

ご家庭に設置されている住宅用火災警報器は、「いざ」という時に適切に作動するように点検が必要です。点検は、「ボタンを押す」「ひもを引く」ことで簡単に動作確認を行うことができます。反応がない場合は、電池切れや本体の故障が考えられますので、電池または本体の交換をしましょう。(詳しくは、説明書をご確認ください。)

